

国際学群 語学教育専攻 4年次

なかむら こうみ (中学校(英語)熊本県)(兵庫教育大学 学校教育研究科(修士課程) 人間発達教育専攻 教育コミュニケーションコース)  
中村 光実 (熊本私立文徳高等学校出身)

この度、熊本県教員採用試験(中学校・英語)、兵庫教育大学院学校教育研究科に合格しました。ご指導頂いた先生方、沢山のサポートをして下さった教員養成支援センターの皆様、応援してくれた友人や家族に心から感謝申し上げます。

教員採用試験に向けては、自分との闘いの毎日でした。何度もくじけそうになりましたが、そんな時に自分を支えてくれたのは、共に頑張る仲間、先生方や家族を初めとする応援してくれる周囲の方々の存在でした。また、「教員になった自分」をイメージし続け、「教員になる」という強い意志を持つことで、モチベーションを維持していました。

私は4年間の学びを通して、教育に関する学びを深めたいと思い、大学院進学を決めました。2年後、自信をもって教壇に立てるよう勉学に励みたいと思います。

教員採用試験までの道のりは大変ですが、自信を持って頑張りたいと思います。これから教員採用試験に挑む皆さんを心より応援しています。



## 大学院合格編

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

じょうじま りょうか (名桜大学大学院スポーツ健康科学研究科(修士課程))  
城島 怜佳 (広島県立賀茂高等学校出身)

私はこの度、名桜大学大学院スポーツ健康科学研究科に合格いたしました。中学校から夢だった保健体育科教員の道を進もうと思い教育実習を経験しましたが、教員への道進みたいという意識がより一層高まった反面、自身の力不足を痛感したため大学院でより深く学び、指導力や児童生徒との関わり方など様々な力を身に付けたいと思い、大学院への進学を決断いたしました。

教員になった際には特に、児童生徒にはスポーツや体育の楽しさや大切さを知ってほしいため、大学院でスポーツが及ぼす様々な影響について、健康に与える影響も踏まえながら科学的に学び、自身の持てる力を用いて、保健体育科教員としての職責を全うしたいと思っています。

大学院の受験準備では、論文(英文)を読むために英語力の向上をメインに行いました。私も大学院での勉強とともに教員採用試験にむけて勉強をします。すべて「ケセラセラ(なるようになる)」の精神でやっていきましょう。



人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

たけだ こうたろう (名桜大学大学院スポーツ健康科学研究科(修士課程))  
武田晃太郎 (長崎県立佐世保西高等学校出身)

私は、教員採用試験2次試験で失敗をしたため説得力はないかもしれませんが、勉強に対する姿勢について少し伝えさせていただきます。各地域によって異なる場合もあると思いますが、基本はどの地域も1次試験において筆記試験があると思います。教員になる上で必須の最初の筆記試験に対して、「部活があるから…」「バイトがあるから…」「臨時採用でいいから…」といった考えで、勉強を怠り本気で立ち向かわない。これから子供たちに対して、目標や夢について指導していく立場となる私たちが、その立場になる前段階の最初の試験に向き合えないのは、覚悟が足りないのではないかなって思います。言い訳しない。ただひたすらに積み重ねる。難しいのは承知で、本気で立ち向かう姿勢が大切だと思っています。

大学院での2年間、教員になるための猶予期間とならないように、私自身研究に勉強及び陸上競技に進進してまいりますので、皆さんも一緒に頑張りましょうね。



## ～教員養成支援センターご利用案内～

利用時間\*平日(月曜日から金曜日) 8:30~17:00

休館日\*土曜日・日曜日・祝祭日

※長期休業中も利用可能です!

場所\*名桜大学 本館4F

TEL\*0980-51-1560

- 教職の履修ってどうすればいいの?
- 教員免許取得に必要な資格は?
- 留学に行ったらどのくらいで教員免許取得できるか?
- 教育・養護実習について知りたい!
- 教員採用試験の勉強がしたい!
- 学生ボランティアに興味がある!

など、教職に関する質問や気になることがある学生、  
将来教員をめざす学生はぜひ教員養成支援センターにお越しください!!

# 教員養成支援センター

だより

第37号

2025年3月14日発行

編集・発行:名桜大学教員養成支援センター

所在地:沖縄県名護市宇留又1220-1

## 戦後80年の節目に「平和」を考える

第二次世界大戦後(以下、戦後)80年が経過しようとしている。昨年のノーベル平和賞に日本原水爆被害者団体協議会が選考され筆者は、「涙が出るほど」に嬉しかった。筆者の父の故郷が、被爆地長崎であることがそこにはある。核兵器禁止条約会議に日本が、オブザーバーとしても参加するのは「今、このタイミング」なのだが…。

翻って、私たちが暮らしている沖縄は戦時下、「本土」防衛のいわゆる「捨て石」にされ、戦火に見舞われた。だからこそ、この沖縄に位置する本学では、建学の精神として「平和・自由・進歩」が重んじられているのだと筆者は認識しているし、その精神に魅かれ、本学に赴任している。「建学の精神」に、平和を掲げている大学はそうそうないのだ。

2009年に代表的な平和教育研究者の村上登司文は、戦後日本が「平和」であり続けた理由について、「核兵器拡散が進み、ついには北朝鮮も核実験を行う事態となったが、日本においては核武装することを多くの国民は望んでいない。日本を取り巻く国際状況の急変にもかかわらず、日本国民の間に戦争を否定し平和を志向する平和主義的な意識は強く存在している。その理由の一つとして、第二次大戦の記憶が日本社会に対して及ぼしてきた影響の強さが指摘されることが多い。」「村上2009:1」と述べた。村上の発言から分かるように、戦後日本の「平和」主義は、反戦争・反核兵器を内実としていた。そしてそれへの支持は、大戦下で民衆が経験してきた軍国主義による思想統制と貧困状況、そして何よりも、身近な人々を「奪われた」ことへの抵抗感、さらには「怒り」であった。

一方で、戦後に教員となった先達は、「自らが受けてきた戦前の軍国主義的な教員養成の体験と、教員になってからの戦争協力という、拭い切れない『悔恨』の記憶」[森田尚人2003:19-20]を抱えていた。この「悔恨」から、1951年に「教え子を再び戦場に送るな」という日本教職員組合(1958年の加入率は86.3%であり当時は、校長・教頭を含む多くの教員が加入していた)の最大スローガンが成立し、それに賛同した「主流派戦後教育学」の思想基盤は、「平和と民主主義の確立」だったと言える(ただし、日本国憲法の三大理念の一つである「基本的人権の尊重」に

関しては、「民主主義」の問題領域に包含されると考えられ、正当・正統な位置づけがなされてきたとは到底言えない、と筆者は考える)。

他方、1955年頃からの高度経済成長期以降、一時期の教育政策・行政は、「人的能力開発」こそが「日本復興の道」とばかりに、時々能力主義=早期分離教育政策と教員管理強化を画策し、1980年代あたりから台頭してきた新自由主義政策によって「強者/弱者」を明確に差異化し、「弱者」を切り捨てようとしてきたように、筆者には思える。そのような政策がなされたからこそ、そして、内部分断とその予防策としての統制強化を進めるからこそ、他者を排除する言動が「あたかも、正義のように語られる」現状があるように思えてならない。

日本国憲法は、「連合軍から押し付けられたものだ」という批判はあるものの、その九条では、「本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。」と定められ、国際的にも評価されていることは周知の通りである(一方で憲法において、その適応範囲は「国民」だと限定したことが引き起こした問題は大きく、「民衆」・「人民」とすべきであった)。

下線部分が憲法に明記されているにもかかわらず、現在の日本をめぐる情勢下で「集団的自衛権」(2014年に閣議決定されてしまっている)がクローズアップされ、それに賛同する人々の発言も散見できる現状をどのように考えるべきなのか、筆者には極めて悩ましい問題である。

戦後80年の節目に我々は、どのような「平和」を構築すべきなのかを熟考すべきであろう。極めて端的に言えば、対話による「平和」の維持なのか、軍備増強による「平和」の維持なのか、という選択になるだろう。

今後の国際・日本・地域社会を担う皆さんは、どのように考えるのであろうか。

国際学部 国際文化学科 教授  
板山 勝樹

# 卒業生から後輩たちへのメッセージ ～合格体験記～

## 教員採用編

### 国際学群 語学教育専攻 4年次

こうち りゅうき  
**幸地 利勇樹** (中学校 (英語) 沖縄県) (沖縄県立名護高等学校出身)

この度、令和6年度沖縄県教員採用試験を受験し、無事に合格することができました。私が本格的に勉強を開始したのは大学3年次の12月と遅めでしたが、限られた時間の中で合格を目指すにあたり、北部教員養成講座に加え、YouTubeやインターネットで合格者の体験談やアドバイスを参考にするなど、多くの情報を活用しました。また、スキマ時間を有効活用し、YouTubeや参考書を使って理解を深める努力を重ねました。さらに、1年次からの教職科目では、教育に関する知識を学ぶだけでなく、自分の教育観を常に意識しながら講義に臨んでいました。こうした地道な積み重ねが、今回の合格につながったと実感しています。

勉強を進めて行く中で、北部教員養成講座の職員の方々やゼミの先生、共に合格を目指す仲間の支えも大きな力となりました。これから受験をする皆さんも、努力を続ければ、必ず合格できると思います。自分を信じて、最後まで頑張ってください。心から応援しています！



### 国際学部 国際文化学科 科目等履修生

おりはら はるか  
**折原 陽香** (中学校 (英語) 福島県) (福島県立磐城桜が丘高等学校出身)

この度、福島県の教員採用試験で中学校英語教諭を受験し、合格することができました。大学1・2年生の頃はとりあえず受けておこうという気持ちで教職科目を受講していましたが、教職の講義を通して自分のやりたいことを見つけることができ、教員を目指すことにしました。試験勉強は覚えることが多く、勉強が果たして間に合うのか日々不安を抱えていましたが、隙間時間を活用したり苦手を見つけたら何度も問題を解いたりすることで効率よく勉強することができたと思います。また、一緒に頑張ってくれる仲間の存在が、精神的に私を支えてくれていました。二次試験対策で面接練習をすることで、改めて自分自身を見直し、自分の思いや考えを言語化することで自分のやりたいことを具体化させ、より教員への思いが強くなりました。この期間は自分を成長させることができる良い機会でした。

受験勉強は長期戦になります。無理はせず睡眠と食事はしっかりととり、楽しみを見つけながら頑張ってください、応援しています！

### 人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

はんがい ふうか  
**半谷 風花** (中学校 (保健体育科) 大分県) (大分県立大分鶴崎高等学校出身)

この度、大分県の教員採用試験で中学校保健体育教諭を受験し、無事に合格することができました。私は、教員養成講座に参加しながら、1日6時間以上勉強をするという目標を立てて取り組んでいました。挫けそうになった日もありましたが、教師になった時の自分を想像したり、友人と毎日勉強時間の共有をしたりすることで、最後まで取り組むことができました。

私は、名桜大学だからこそ得られる経験が多くあると思います。そのため、後輩の皆さんには、一見試験とは関係のないように思えることでも、挑戦したいことがあれば全力で取り組んでみてほしいと思います。その経験が多くの引き出しを作り、採用試験にも必ず生きると思います！！応援しています！

最後に、私が採用試験に合格できたのは、名桜大学の先生方をはじめ、北部教員養成講座の先生方や教員養成支援センターの教員の皆様の支援のおかげです。ありがとうございました。



### 人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

よしだ はるか  
**吉田 遥華** (中学校 (保健体育科) 福岡県) (福岡県立朝倉高等学校出身)

この度、福岡県教員採用試験を受験し、合格をいただきました。試験までを振り返ると、自己分析することと一緒に頑張る仲間を大切に、沢山頼ることが大切だったと思います。自分には何が必要かを考え、ボランティア等で多様な子どもたちと関わり、実践力を少しずつつけていきました。また、勉強に関しても、本番を逆算して何をすべきか細やかな計画を立てました。私は、問題を何度も解いてやり直しをすることで、知識が定着したと感じていますが、個人で効率的なやり方が変わってくると思うので、早めに取りかかって自分にとって何がベストかを見つけることが重要だと思います。また、面接でも、自分の魅力や弱み・強みを隅々まで知り尽くした状態で、何度も先生や友人に練習のお願いをして、完璧な状態で本番に挑むことができました。

強い意志を持ち、学び続ける教師を目指して成長し続けますので、皆さんも合格に向けて後悔なく全力で試験に挑んでください。また、挫けそうになったら、頼れる人が名桜大学にはいるということを覚えていてください。きっと大丈夫です。全力で頑張る皆さんのことを陰ながら応援しています。



### 国際学群 語学教育専攻 4年次

やました みお  
**山下 弥桜** (高等学校 (英語) 広島県) (島根県立隠岐島前高等学校出身)

この度、教員採用試験に合格し、4月から高校英語科教員として教員生活をスタートすることとなりました。私は複数自治体の受験に挑戦し、対策範囲の広さやスケジュールの多忙さから何度も心が折れそうになりました。その度に、本当に教員になりたいのか、なぜ教員になりたいのかと考える時間をとることでモチベーションを維持し、自分の教員になりたい意志を強固にすることができ、最後まで受験を乗り切ることができました。

苦しい時期もありますが、教員採用試験対策を通して、友達と共に頑張ること、自分なりの息抜きを見つけストレス解消方法を見つけること、そして自分なりの努力の仕方を確立することは今後の人生において大きな財産となると思います。応援しています。

最後に、北部教員養成講座の先生方、ご協力くださった名桜大学の先生方のサポートに心より感謝いたします。新任教員として不安なことはたくさんありますが、教員採用試験を含む、大学での様々な経験を自分の自信に変え、精一杯精進していきます。

### 人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

こうづま るか  
**上妻 琉花** (養護教諭 (鹿児島県)) (沖縄県立名護高等学校出身)

私は、この度鹿児島県の教員採用試験において、養護教諭として合格をいただくことができました。私が合格することができたのは、保健室でのボランティア活動の経験と周囲の方々のサポートのおかげだと思います。保健室ボランティアを行う中で、「先生」と呼ばれる立場として、座学だけでは学ぶことのできない現場ならではの経験をすることができ、子どもたちと直接関わることで、「教員になりたい」という気持ちが高まり、試験勉強のモチベーションにもなっていました。また、二次試験対策においては集団討論などの練習にあたり、友人や先生方から沢山サポートをしていただきました。このサポートがなければ乗り越えることが出来なかったと思います。同じ目標を持った仲間と協力し、高め合うことで沢山の学びを得ることができました。

周囲の人々と環境を大切にし、感謝の気持ちをもって、自分自身の目標に向かって突き進んでください！応援しています。



### 人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

ふくだめ みずき  
**福留 瑞生** (養護 (鹿児島県)) (鹿児島県立鹿屋高等学校出身)

教員採用試験を受験するにあたり、私は毎日1時間でも問題集や過去問に向き合うことを徹底しました。はじめの頃は過去問を解いても間違えばかりで復習に多くの時間を費やしましたが、何年分か解いていると間違いも少なくなり復習の時間が短くなっていることを実感し、自分自身のモチベーションに繋がったことを覚えていました。1人で挫けそうな時は、周りの友人が頑張っている姿を見てお互いに声を掛け合い、自分の気持ちを鼓舞させていました。たまには遊びに行ったりしてリフレッシュすることも大切です。

日々の学校生活やアルバイトなど自分自身の生活もある中で教員採用試験の勉強や面接対策を行っていくことはとても大変だと思います。周りと同じスピードで進める必要はありません。周り自分を比べず、「自分なりの向き合い方」で1つ1つ着実に自分の課題を解決していきましょう。私も周りの人たちにとても支えられたので、みなさんも1人で頑張らずに、友人や先生方を頼ってみてくださいね。陰ながら応援しています。



## 教員採用および大学院合格編

### (中高共通 (東京都))

このたび、東京都公立学校教員採用候補者選考を受験し合格することができました。東京都志望した理由は、さまざまな人がいる環境で教育に携わりたかったからです。教職教養試験では過去問を繰り返し解き、専門試験では過去問や講座で配られた教材を利用して学習を進めていきました。論文試験は、東京都が公開している過去問を用いながら学んでいきました。二次試験の面接では、面接票から出題され書いてあることはもちろんですが自分の言葉で伝えられるよう意識しました。

私が教員採用試験の学習を開始したのは一昨年の11月からでした。少し遅めのスタートではありましたが学校で行われる講座への参加や先生方に相談したり、周りの教員採用試験を受ける方々と切磋琢磨することによって合格することができました。勉強をするのはもちろん自分自身ですが継続する学習で他者と関わるとはとても励みになりました。就活やサークル、バイトなど多忙なことも多いと思いますが頑張ってください。